



刻本五集

青房子園

青房子園



青房子園

青房子園

青房子園

青房子園

青房子園

青房子園

青房子園

青房子園



源朝臣鳳朗翁寂照慧息追福

俳諧通南未集

羽州
山形

門人

南山送壽
席洋枕嶺
朱明蓬石
江月青煙

去りし人此より一守る家好は
るりあうら時移りよあふるり
志うらむ程むり志のまろそり
のこあるハ沙才の弊おろいとあ
やうきりのものよこをほれお月を
この日か自然堂風郎志士の十三
田忌千あめり六そり子れ人追福
堂人や思ひ命もさる事あり

り終へし其志果さんとして先
居士の記念に句を拾ひてうん
ふ四海兄弟に因てあはれ詠を撰
て遺小一葉ありぬるをわが居士の
の厚きやいふに其厚の厚きとお
叶ひてはるまの志のあやめ
かみするふ朽の成事あはれん
先はしあやう筆をとるふ志う
先

あひと逢戊午中秋

五梅庵集用



榮之進舎國香書



四時

花本 鷹朗

青明て日は遠り夕め松ほら歌
ゆくのこ傳来る言ハナリ一郭云
芝留のきほ花もあめ花中
水仙や探のげ多葉もそ花あ

追福席上俳諧連歌

桐樹院自然 鷹朗居士

あつくと小春の曠や柳もる

かよそよ 蠅の目を志身と小冬 送壽

扇川れ花をあらそよ 蓮谷 枕嶺

ひくそは今よりそよ 蓬谷

ゆきよはまのぼるのあす 月明 青崖

大輪よ成りく 奉璣

社家界のしんらいさやのらうそきえ

水竹

浮屠前下よなむむつ

双岳

休らせよま打れうきんきん信あり

素月

多く浮れらあめなを口口粉

雪山

ひまの志ほむをまもほはなり

玉鷹

海そあなうてむしき月

月悠

活魚れそなをならうく浮あうめ

里曉

京のそきまらひんれよよん

吃智

投かけ一海をれ雲雲のしんあ

看龍

うねめてうらうらうなれあ

鷗盟

あき様よまげれを結ひ付て

自樂

多る麻よふのーきるあ

弘仙

涅槃會のほを静な演の寺

中統

ひー菓子そくそん筆

金英

世並よあういあめある人ある

一賀

けよも風らんけ向もうたらぬ

江流

さかみの糸一箱を種みして 泉和

せまるおとこひよふあはれうー 陣一

草波のらきせいの敷の敷うらら 万木

ふゆあはるるまはれ健の 禾川

志つゝ名もあらうらあるあをれ 文陽

ほきさのゆきうらよ清き良火 甫哉

あらしの雪も根のなき月の風 観瀾

取のとー多るあはたらき 文子

秋夜の梅やま借も用てーとく 城山

懐れあそまのほくよ山の鶴 孝輔

泡もあまる川はゆりよ月のなつこ 漱水

やうともこれほあまを握るは 静心

糸のくらしきさー小糸屋の人やを 流水

春をゆいさうながしよ水先を 南花

右一明

手後より一ふのゆる半さな 青唾
 梅るたるむうしだともぬ桐火桶 蓬谷
 けふれ日やさも焼くはゆり花 枕岩
 お手より灯は立あゝのま武子 道壽

おはむかひりうどうらぬくふん
 海より白くあけくともは田向し侍る

襟花はくしてあふ多き柳を申 太梅
 をんが通るあまの志なる枕のそぬ 八采
 おるまゝよまひさすまゝなる様のなら 紫山
 おしののびるると鳥やもくはきかな 護あ
 妻とも侍おけきまよ入るまななを籠 日人
 雛子なまや目のまへくらむ山の獲 沙鷗
 なまよそあゝなまあまらむほりきん 栲室
 ぼるるれまことのぬあまも糸袖の南 禾木

池ふくしは初らゑまゝぬきりし次 寺池
 あら海やひりしをいそく好の月 西月
 空のけくくるし難りくそふの露 確嶺
 朱雀盟をくそくきせるや錯多しよ 一具
 あまももあまをてけしよる時をうな 乙二
 乳掃くくのそくきりゆるふ素衣 蒼虫
 志る松は漁漁のれり夷 儀 盛重
 子のねのさくそくて斬れ毫少に 風外

四時

晴天やう来いそくより 聖のさく 舎用
 日の入しあまもゆりいとそくは兼 多よ女
 にほひあるそくまをかりぬおぼえ月 由誓
 氷見ももくくよよ日や種おんし 鼎左
 雪消しの雨一束ふる 隆月を 尺外

のささるもちらるる音のゆるるが 為山

日さのめや力のならぬかきれむと 梅道

袖れふや今木よ石を撰のそく 為節

若竹や産ちまふれ常一望ら 可火

つまらぬ袖もむむりよ這入なり 芥舎

半さかむこし一尺ふらむる新橋が 抱義

群もゆるさふよはゆき亭室刀き次 水壺

山門のるむらむむや保とく産す 清高

むしからんやさうしそけハ濡女夜 悠一

いとくふかむらむら産を撰る山家ま 京郎

おひきだもやふるねもむらむらむら 未豆

にもとめれうなむらむらむら 桐一紫 江三

海菓釣の志るや一ねや笠の蝶 了知

七夕や何とかなしに忠ちの糸本 而后

名月の忠をいふやむらむらむら 美古

さうしあや色一鳴るをまほむらむら 松付

とれ切て幕のはりなる杜野に 邊淵
 かけさく月あはれ山れ一母 等哉
 鴨もまはなる目敷やがれを花 玄子
 入右のほもむれを夢もちとを 祖々
 阿とやうよおよなり妻よ冬れさ 西馬
 月と日れおよそのな 壹の上 御風

春之部

よいころは月をれ勝なる木のあつ那 仙府 五雲
 晴りやいぼやよの灯れさ申るまき 智夷
 りのの梅よあけえれいな ちるれら 中二
 くれがさ 一いささるも 正月のな 郭高
 ころあまをいよのな手もや袖もれ 芳嶋
 立いそくも 一わまれ 一やういそ 廣坡
 おもひぬよおちらふるあやお保る月 米花

かうれ申るもれ志とんや春の是 柳江
 うるはすやあうれもけくしきこゑ 千波浦 菊月
 伊れおるし申く庭もく柳の浦 中江 仙遊
 はなまゆく流るるや宙をたたむ 茂丸
 日さぬしけれとあつるふさくらば 一翠
 ゆふくはくさくさく見せし梅の花 蕨中山 屯哉
 まさつとよめあそびを茶のゆき 茶海 蓬子
 志らぬやめつひをれを月も見申る 雪珠

海らうをぬく見し申く野梅 川井 月山
 めやあそびや宙の流るる人の来 福海 千瓢
 みるほくもるえぬをゆれ蛙うれ 友泉 汝松
 隣島やうまもなをけく思ふ 荒砥 分お
 うしせにほくし申る 小橋 川次
 字ら山よ人のねし 大石 可も
 おふは来のもや東もつら春の音 大石 思也
 雪のかけしほくやうはおほり 一羽

穀^{岩波}とやも風のしなるまゝなり ^画 吃
山^{石地}もよや石りは志^久の音 ^業
かゝらぬやわいそら^月を^月あつ^月き
燈^五籠^蝶の灯をい^二はく^珠ん春のき
あの花やむき^山れ^二煙のほれ^一を^二る^一
ま^{吉田}むら^三れ^一も^二な^一り^三ら^二う^一は^三ま^二き^一ね
け^{元木}ら^三ま^二て^一の^三ふ^二つ^一を^三花^二を^一つ^三な^二遊^一月
一^二つ^一つ^三ま^二も^一い^三の^二ち^一を^三ま^二さ^一り^三月^二葉^一

牙をう^一こ^二い^一る^三戸^二口^一や福^三壽^二中^一 糸^三信^二
う^一む^二ひ^一ま^三に^二秋^一あ^三ま^二ま^一に^三畫^二の^一せ 可^三明^二
蛾^一の^二言^一し^三よ^二ほ^一も^三も^二つ^一ま^三れ^二前^一こ^三り^二李^一山
い^一ぬ^二の^一や^三う^二ま^一の^三ひ^二ま^一の^三物^二よ^一り 月^三悠^二
途^一中^二の^一ら^三拵^二入^一途^三よ^二ふ^一ん^三の^二靴^一 ^{大石} 其^三勇^二
こ^一ひ^二あ^一の^三か^二き^一ぬ^三を^二通^一し^三月^二あ^一る^三 矣^三凡^二
拵^一よ^二出^一し^三よ^二け^一交^三交^二や^一望^三光^二り^一 之^三無^二
四^一子^二輪^一の^三く^二め^一や^三の^二せ^一を^三垣^二一^一重^三 松^二言^一

上

さすわくながひく枝ありいさくくら吉川 雪窟
かげをいぐる竜うらや那の梅香澤 芦葉
茶々ありの中や忍び代通い道天童 文陽
ひよりよに打ちくえき子、初三子五 二兆出生田
内の雛さるをせりくく尼毛一ぬ老十口 宗管
きくなくやせりく 落る此の古六田 森右
うらさしき歌くくむるやあかり尾山 雪右
あきの月多しうにきくおの雪丸尾山 鶴山

まよふに日を揚むらす日なりが南嶺 五友
雛子あふや足たらは海子旭のま喜根 青峰
いしなるもあひまきのほく梅のそ丸山形 野笑
さくらんておこきよなるや葉つ三唄 雪書
こころももさるものにはきく揚るる度 嗽石
笑花もさるものにはきく揚るる度 忍竹
花の戸前多てらる日永子 素懐
さくらんてあひまきのほく梅のそ丸友 江海

くらむすや旭よ志草くしや松のこ 塚山
 舟後やむきんていさるいしやなよ 子山
 しんおのまいそぬほくやまのさく 小湊
 日のほろくく木さうたうく柳は 川風
 かなまいたしあ燕よがてあまの春 石鼎
 ちりよそていさなえおまやの 高石
 をれかく眼のま即ッ美の海 万木
 ちあやとや團くちやも揚のさうり 赤川

文の款

三浦やそよ久ほとよハのいそくせう人 宗古 仙府
 やまおよのたえれ笑ふる清水が 又人
 川をせも田けく急やうれ事流り 南山
 まくハ衣のこくかえも帆一時鳥 常め
 風さつとまきやよのくるふ招魂が 安女

本誌を出て月よかろくしそもつな 各角
 もれうゆくゆわえろまかりなり 不及
 踏るいれ事種うなりし弟はる 丘月
 だつねるふれもまればつるゆ 赤山
 思ふ日や花川ちきく白ほきん 千賀浦 湖月
 おひをよあふあつらう借りし子 オ山 又曉
 かな乗るるありしきりへしはふ 橋二
 若くも坐なりけまけなよ徳家 谷泉

抱そめに影影しきりけし人 進貞
 おうかろ場おうらほめてゆゆ添 雅友
 かしくと風よたふあつらんこ鳥 遊甫
 結帯よ月れちらるる志えら 萩中山 萩冥
 晴ららせよの名をきく人のほりな うな 梅耕
 いまらちら思ふ事早けれまきり 大塚 柳宇
 山寺のゆふは復枯やあま子鳥 阿きの
 ちり日のてりくく あき 漁月

一峰之世をよめるある者うつるな 四院

ひるのほやふるよ美垣のうら表 皓月

児を抱きしめけける言ふ 柳象

こもきけようそふよむひの 崖 アラト 桂石

交沙あふたふして向ふなり 小岫 老松

ふるげはよる毎に強る常の 太妻

こころほくもぬぬああり 天童 采高

まらる侍津いあらり夜の 雪山

乙多れ田はゆく花やまあらし 素月

あはも雪の半はの亀や交れ月 大谷 川澄

夕うせよおとる 歌や樹の中 梅芳

ひはたらふんそめのふれぬ 吉川 双南

解うらも喜よ替りなよ 夕テ丘 老丘

之日月のふるやいなやを 谷地 水竹

この業らんよひらく 本枝 五鳳

儀らつて 本枝 蒼馬

落月織帯ぬきつる信をたぐせゆく 東根 山

志士の戸よむらひあはせや百念のそ 東井

川流のち柳よきけくもむらうなり 沼木 長寿

すうそめ初むるけり 平尾水 波月

けいふ疑あらしく 岩浪 耻川

川かりぬきし 岩浪 耳雪

為針のいとを ま田 玄岱山

なみ モトキ 清水

る 山形 太湖

ち 山形 文子

采子 椿南

そ 智山

海 梅園

一 楳辰

原 平山

か 万来

中おまよ一艶もらぬ烟れまの 梅葉
 藤うらや田植志常ひ 青れ菊 津芦
 おまのう次よきり 翠て紅れ糸よら 玉瓢
 紫よ来亭 庭あらたまる 梅うら 水月
 ほきる猶字履きくく人なりよけり 如柳
 冷麦れゆまよのそらなり 水れ音 叙好
 むきふふまよのそらなり 久遠水が 梅林
 雨やうらうら 黄ひかりかよつたを 志月

佛留まも廻るかやうれききりうな 並雨
 人かこれのまよまの麻の子れ 育る程 梅幹
 川裾よふそれ音ゆり 夏の月 素柳
 疾よれもほらうま念なり 梅れ音 梅葉
 今雪のまをれさ木れ音や蝶の姿 其蝶
 朝の光をあらうら 梅の給うる 其雪
 夜れ月松よのうらうら 東照ふよ 玉扇
 かまほらや梅をいして夕かせき 叶山

夜水ら久秋もくくあり交の月 竹雨
 魚花くくあきる葉しけうあ紫が 仙羽
 風せれもあまあやほらうあは 芳翠
 月よりも屋よりあゆもあぢあは 梅風
 一境越すう穂をさるる其田可乾 来山
 さまはまの上より下よりあぢあは 皆風
 降きくらぬあはあぢあはあは 於地
 入梅もあやあはあはあはあは 曉鶯

いあ越すなやあはあはあはあは 鷗盟
 ああああああああああああああ 一
 ああああああああああああああ 里曉
 ああああああああああああああ 自樂
 ああああああああああああああ 琥珀
 ああああああああああああああ 観深

秋の詠

夕葉よみらふこまよ紅葉の風

仙府

鬼白

きこえゆる灯よまきく写やまが光

彫栄

草よ群志ついでじりのおゆが

叶友

四五枚の田よいのみよかしのな

魯人

嵐尾字ようく日のおきくる木下江

亀尾女

空ハそら日まひよんそそく秋の風

白知

いす起しかほや志益のなまよま

住好

ねもまゝふねのけりや扇の志克 芝園

舟也涼よねゆる秋の空そそく那 舟丘 竹分

いしらあよまそ道にある尾字うな 萩中山 露笠

木はきわからくまふゆるねゆる 米澤 竹二

そこのめくはせよける角の鏡 友泉 こめ女

しるものきぬもあつら 松原 双叶

朝のほや葉をこれハ人れ来る 小出 茶丘

あやのわや露の光りもえら 瀬尾 流尾

四方うらををせしめてそはの夜 ニカシ子 浦哉

あまのきもやまきするちよ月ゆり 辰出海 藻鏡

移はすやつらいつのの水れおき 岩浪 素乳

むしりのねをきくながし 岩浪 多至

栗茹やうつらむぐお久 紡漣の光 之本 流水

敷ありく野のいんさき 大石田 如花 丘雨

いんはく文の自ぬきぬ サカエ こつたよ 月嵐

川止 沼木 ちんちんにもおくる 産也籠 深教

志ら氣もさきさきも同 廻 月おき 迺海

轟 山形 するら 産の人や 荻 烟 茅 既 醉

やがし 山形 くに け 焼いまをり 秋の 塙 郭 公

野 山形 ぶ 山形 へ 平らになりぬ 濱の 夕 一 咲

野 山形 ぶ 山形 へ 来り入るあり 之の 月 松 月

日 山形 くら 山形 へ ば せ せ け せ 一 あり 鶴 怨

老 母 の や くら 山形 へ ば せ せ け せ 一 あり 燕 趣

と せ せ せ 葉 や も の ま ち ち ち ぬ る の 音 疎 糸

風きておらのまゝくく 噴あつた乾 方居
 火をそのりによい 稲きく白ひく 千雀
 見えーらぬまも 相のいよ 葉あれ 一徳
 田の家ぬきーらか じふなるまな 赤松
 若やうちやあまのよられ 田あがり 八重女
 松のぬきくくあめ ちうつとむー 霞居
 ちうちのくくく 白落やうむいふく 湯水
 眼のまきーあま ぼくちうー 菊のむ 梅々

釣草けそのまのいこて けきの秋 泉和
 こよゆいのまきく ぬのほの雲の那 静山
 ぼんて戸をひく 椽の切絶や 着就
 名月けもほきいもなれ ちひの匂 河蒼
 子れなぬきーあめ ぬいなる 結うら 一晴

冬の一部

神さあましんかー 庭の草 仙府 江 二

降雪に奠ゆる門の灯の籠 柳美
旅も一変ねむや小春の水車 市曉
のぼりゆく坂のあつたよる白川 月江
右の灯れこゝろくちろく酒一所 湖産
ちらほらと小笠れめふかぬ聖子 萩中山 柵崖
猫の子れにこそまをり けりまを 米沢 瑛山
鮫汁やうーろよ志する月明り 玉止
月窓 根岸

二書きふりてもし里の小春の那 大ツカ 朶峰
二三日道もこのまゝのてふゆつたま 菟泉 鹽電
那まよそ水ま アラト 洗音
二人居てあつたあまの油豆汁 小松 星橋
よえうら日と水とゆえや年れ苦 長サキ 岩月
静もよ小羽や 孫山 や 天童 赤塚
ものむ 天童 せぬ前や 天童 双岳
節分やいふおら 天童 けり 天童 如圓

星の夜はきく借よりみえくあらはる家 尾花沢 訥言

もつ裏のうらうら 元木 出あ

煉拂きさう借らんきり サクラ田 高雪

さうさてれらうら 山形 初習

小春日や一日之申る 恋心

枯くさ付る入し 甲之

むねやうに 晴嵐

周もなき 暮暁

初霜や 孝補

水抱を 銀月

あら 若松

かほ 土水

志つ 旭峰

や 森来

ふり 破鏡

只 求我

春花
 子三
 旭峯
 金英
 中龍
 忍仙
 朱海
 一雨
 春花
 子三
 旭峯
 金英
 中龍
 忍仙
 朱海
 一雨

補助を職婦より句を乞はれ
 けり幸ひなりけり連句あり
 ハ巻末に加てよとて

ちのちななく花はほつ月の忠きよみ 一雨
大谷 川の
 鏡をよれはよりほつる流花子

必しとてなる白湯ならしと
 そとよみて日永き松葉乾
 言士も杖も凍せらるる事
 神のまじ粉おそなる涅槃像
 七もまじこもまじに漆子ならし
 川ぬれほらやこもまじも若さなり
 道も印もくまじもひきしぬ
 言しとて筆よいらる、歩若く深

秋ちりそむる砂のゆわいせ
 居たうも指ありの月足る屋
 撰稿もまじもあける新末
 夢のまじいもつしほくも奥同者
 そつとつたのたのよも手拭
 江戸編の花よまじもらひ消らり
 活あもよほらも伸る枸杞の芽

下畧

半実のいるや晩梅のむら

補助

奉 環

いふうぬ松のつげりや江の海

春 暎

きほとよ照住杖をよみ

蓬 石

山焼れ東うけうるや江のつねり

枕 巖

い敷おきまうるうらむ夜れきた

送 寿

世の中は父母に恩をたよめてい解け恩は

こころのまゝなまゝにまゐらば風雪は

いふ人ありて其道よいきりあつてをい

く子もあまのいぢりて名なきに海なる

けりさあつて方おひりて連月なるも

世の縁やあらさるゝにまをれはゆ

きよまゐる東ぬのぼりなほらうほ

めりくまゝまゝらほく連白といふ

めくしあきしむさくらあきくもくもく
しんくわきしんくわきしんくわき
かきしんくわきしんくわきしんくわき
あきしんくわきしんくわきしんくわき
おれまの常盤の吉原

